

大阪は‘まち’がほんまにおもしろい

# 堀江今昔ものがたり

## ～堀江新地、堀江川跡から大阪相撲発祥の地まで～

元禄11年(1698)、河村瑞賢によって西横堀川と木津川を結ぶ堀江川が開削。堀江新地が開発され、北堀江では浄瑠璃、南堀江では大阪相撲が起こり、木村兼葎堂や橋本宗吉といった様々な文化人や学者が輩出しました。堀江の今昔を辿って、まちを歩いてみましょう！



### ① 加賀藩蔵屋敷跡・大阪府会議事堂跡

加賀藩蔵屋敷の所在地は、北組上中之島町(淀屋橋の北詰を西に入ったところ)という説がありますが、当時の見取図や大きさ(間口約16メートル、奥行約72メートル)から、そこは蔵屋敷事務所、実際は南組金屋町(道頓堀北側、住吉橋北詰)にあったと推測されています。幕末の頃には敷地面積は約5500坪にも及び、明治15年(1882)3月には、本格的な府会議事堂が建てられました。しかし明治25年(1892)3月の議会開催中に火事で焼失。その後、跡地は中立銀行が所有し、倉庫部(後の日本倉庫株式会社)が運用していましたが、経営不振に陥った明治35年(1902)、住友倉庫が吸収しました。戦後は再開発でオフィスビルやマンションが建ち並び、周辺環境が変化したので、平成20年(2008)7月に、その地を利用して商業施設のキャナルテラス堀江がオープンされました。

### ② 大阪電燈株式会社 西道頓堀発電所跡地・宇治川電気株式会社 道頓堀変電所跡地

大阪電燈株式会社(現・関西電力)は、明治22年(1889)5月に当地に西道頓堀発電所を完成。大阪初の事業用発電所で、日本初の交流発電方式による高圧配電を開始しましたが、大正4年(1915)に廃止され、昭和初期までにはその姿を消しました。西道頓堀発電所の隣に、大正2年(1913)、宇治川電気株式会社によって建設されたのがレンガ造りの道頓堀変電所で、昭和23年(1948)にその役目を終えた後も、倉庫として利用され、長らく「赤レンガ倉庫」として親しまれました。

### ③ 難波神社御旅所

博労町にある難波神社の御旅所で、御祭神は仁徳天皇と彦狹知命です。明治40年(1907)1月14日、難波神社の境外末社に列し、同年8月19日、西道頓堀にあった堀江神社(元由加神社)を合祀しました。当時、境内は約340坪あり、7月21日、22日の氷室祭りには、難波神社からの大行列がここで休憩をして、かち割り氷を食べました。しかし戦後、マンション建設などによって敷地が大きく削られ、御行列も途絶えてしまいました。

### ④ 堀江川跡の碑(堀江公園)

元禄11年(1698)、河村瑞賢によって西横堀川と木津川を結ぶ堀江川が開削されました。これにより堀江新地が開発され、堀江新地に対する幕府の優遇措置などにより、北堀江では浄瑠璃、南堀江では大阪相撲、また各種の産業が起こり木村兼葎堂や橋本宗吉といった様々な文化人や学者が輩出しました。昭和35年(1960)に、戦災の瓦礫処理と市街地の拡充のため埋め立てられ、その役割を終えました。

### ⑤ 立花通り商店街

この辺りは江戸期は橋通という町名で、明治5年(1872)から南堀江上通となりました。昭和34年(1959)に南堀江立花通1～6丁目という町名ができますが、昭和53年(1978)10月2日の住居表示の実施にともない、「立花」という名称が消えてしまいました。幕末から建具屋、古道具屋、単筒商、仏壇屋などが並び、明治、大正時代になって家具屋街として賑わうようになりました。住宅事情の変化や、マンションの備付け家具の普及などにより、客足が遠のいた時期もありましたが、平成2年(1991)、家具屋の2代目を中心に発足した「立花通活性化委員会」の様々な活動により、活気を取り戻しました。現在は、家具屋の他に、インテリアショップや雑貨屋、カフェなどでも賑わっています。

### ⑥ 堀江やぶそば

創業大正2年(1913)。創業時は大阪市福島区の聖天通商店街にありましたが、その後、大正区の三軒家などに移り、昭和40年代に現在の南堀江1丁目に店を構えました。手打ちではありませんが、自家製麺を使用しています。

### ⑦ 山田ランマ

創業80年を超える老舗欄間店。戦争中は疎開先の鳥取で営業していましたが、昭和26年(1951)からは大阪に戻り、堀江には昭和30年(1955)頃から店を構えています。現在、2代目の山田健二さんが企画から制作までを一人でこなしています。「大事にしているのはお客さんと一緒につくること」という山田さんが作り出す欄間はまさに匠の技で、伝統工芸師として認定され、大阪市長賞を始め、数々の賞を受賞。平成21年(2009)にもその優れた伝統技術を経済産業大臣から表彰されています。最近では欄間の需要が少なくなったため、看板や表札などを手かけながら、また、小学校高学年を対象とした授業などで欄間制作の技術を伝えるなど、伝統工芸の伝承者としての活動にも積極的に取り組んでいます。

### ⑧ 藤井藍田玉生堂跡の碑(高台橋公園内)

玉生堂は文人、勤王の志士であった藤井藍田の学塾で南堀江3丁目にありました。藍田の祖父は阿波の出身で、来阪して呉服屋と藍を商う「綿屋」を開きました。大阪で生れた藍田は家業を継ぎ、その傍ら田能村竹田に画を学び、廣瀬淡窓に詩文を学びました。また、国事に目覚めた藍田は勤王の志士と交わり、長州・薩摩などの諸国を巡歴。安政3年(1856)、帰阪してこの付近に私塾玉生堂を開き、学を講じるようになりました。塾は討幕の志士たちのたまり場となっていたため、慶応元年(1865)、藍田は新撰組に捕らえられ、天王寺区の萬福寺に幽閉され、獄中に没。享年50歳で、天王寺区の統国寺に墓所があります。

### ⑨ 紀州藩邸跡・高臺(高台:たかきや)小学校跡

現在、大阪市立堀江中学校があるこの辺りには、昭和20年(1945)3月の大阪大空襲で焼失するまで、高臺小学校がありました。明治5年(1872)11月に西大組第18区小学校として設立され、明治12年(1879)9月に高臺小学校と改称。戦後、わずかに残った校舎は修理され、花乃井中学校高台分校として使われていましたが、昭和35年(1960)、堀江中学校として独立し、現在に至っています。かつてこの地には紀州藩邸があったとされています。

### ⑩ 勸進相撲興行の地(南堀江公園)

承安4年(1174)に朝廷の相撲節会が廃止されたあと、相撲は武士の娯楽として、主として武家屋敷内で続けられてきました。興行としての勸進相撲は風紀を乱すという理由で、江戸幕府により禁止。しかし元禄の頃には、勸進相撲については緩和の方向に向いてきており、元禄12年(1699)には京都で天王社修復を理由に許可されたのをはじめとして、延享4年(1747)には特に理由がなくても勸進相撲を興行することが許可されました。大阪では、「撰津名所図会大成」によれば元禄5年(1692)に南堀江高台橋通で興行されたのが最初との記述があります。一方、「堀江御開発日記」によると元禄15年(1702)に堀江橋通3丁目で興行されたのが始まりという説もあります。

### ⑪ 辻重庵

昭和35年(1960)に車1台で商売を始めた辻重行さん(現会長)が築き上げた、お茶のメーカー兼卸問屋「山城物産」本社ビル1階にあるお茶屋さん。現在の2代目社長は2009年・2010年と全国茶審査技術競技大会で4位の成績を修め、大阪では珍しい茶鑑定士7段の資格を持っています。買物に行くと美味しいお茶を振舞ってくれて、つつい長居をしていますが、地元民に愛される憩いの場ともなっています。

